

めざせ！！子ども森林インストラクターin埼玉2021

「里山に学ぶ“天覧山・多峯主山ハイキング”

10月24日、9時30分飯能市民会館駐車場集合で受付・健康チェックを行う。雲一つない秋晴れで絶好のハイキング日である。児童参加者15名を1班7名、2班8名の2班に分け、3班を保護者のグループとした。1班は佐藤・太田、2班は久保・西田、3班は高杉がアテンドした。関谷さんも応援に参加してくれた。全体の説明を行い、準備体操後、1班から順番にスタート。まずは能仁寺で記念撮影。写真撮影時はマスクを外して良い事にした。簡単に寺の歴史を話し、山門の柱に付いたアライグマの爪痕を見て、通路の石灯籠は東京の増上寺から移転されたお話をした。境内にて飯能戦争のお話をしたが、子供達は渋沢栄一の大河ドラマは見えないようだった。



能仁寺の山門前で記念撮影



仁王像



葵の御紋を見る

天覧山に向かう途中、ムササビの巣箱や巣を見て、イラストで説明し、ムササビは120m飛ぶ話をして、天覧山の名前の由来などの説明を行う。中段のトイレ休憩地で、コースの説明。十六羅漢像を数えながら見て、急な岩山を登ると、もう天覧山山頂だ。頂上で記念撮影。チャート岩が出来た仕組みをイラストで説明。看板には標高195mとある

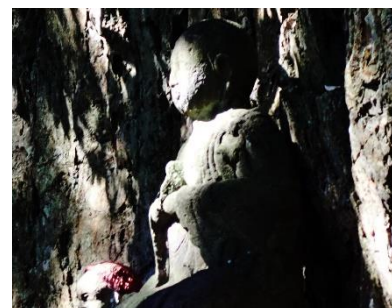


天覧山山頂



スカイツリーを望む

が実際は197mらしい。天気に恵まれ頂上から富士山やスカイツリーが綺麗に見えた。



十六羅漢

次は多峯主山に向かい、しばらく森林の中を歩く。途中、最近下草刈りをした林と、10年前に下草刈りをした林の比較をしたり、二次林(雑木林)と人工林(スギ・ヒノキ)を観たり、キノコが生えているところで、森の仕組み(生産者→消費者→分解者)のお話を図解で説明した。ヤブムラサキの葉っぱを触って触感を確認した。多峯主山山頂手前で



多峯主山山頂

は最後の急な石段があるのに、一人も遅れることなく、山頂まで登れた。ここで最後の全体写真撮影。これからは下り。常盤平の手前でトイレ休憩の後、待ちに待った昼食。見晴らしもよく、陽当りの良いところで食べられて良かった。



友達と昼食を楽しむ

見返り坂は常盤御前が素晴らしい景色に感動し、何度も振り返りながら歩いたと言うが、現在は木が茂って見晴らしはあまりよくない。雨乞いの池を見学し、谷津田でカヤネズミやモリアオガエルのお話をイラストで説明。チカラシバを引っこ

かったので、アカメヤナギの横の原っぱで虫さがし。イナゴなどのバッタがいた。アメンボはなぜ水に浮くか？ヤモリはなぜ壁を登れるか？などの質問に対し、毛が生えているからと、大人顔負けの回答をする子供たち。シャガ(アヤメ科)の両面裏面の葉っぱなどにも大変興味を示していた。

最後、市民会館横中央公園で児童たちに感想を言ってもらい、体操をして解散。希望者のみ飯能市立博物館へ立ち寄り、飯能の歴史や自然を勉強した。



雨乞池をのぞく



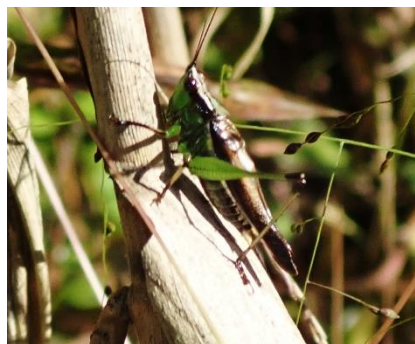
谷津田の生き物を観察



雨乞池



虫探しに夢中



イナゴの仲間

このレポートを書いているうちに、なぜあんなに子供たちに体力があり自然に慣れ親しんでいたのか不思議に思った。おそらく今回の児童の親御さん達が教育熱心で日頃から自然教育をされているからだろう。今後はそうでない子供たちにも参加いただけるように、学校や自治体と協力して企画することも大切だと思う。とにかく、怪我もなく無事にプログラムを達成できて良かった。(報告: 西田)